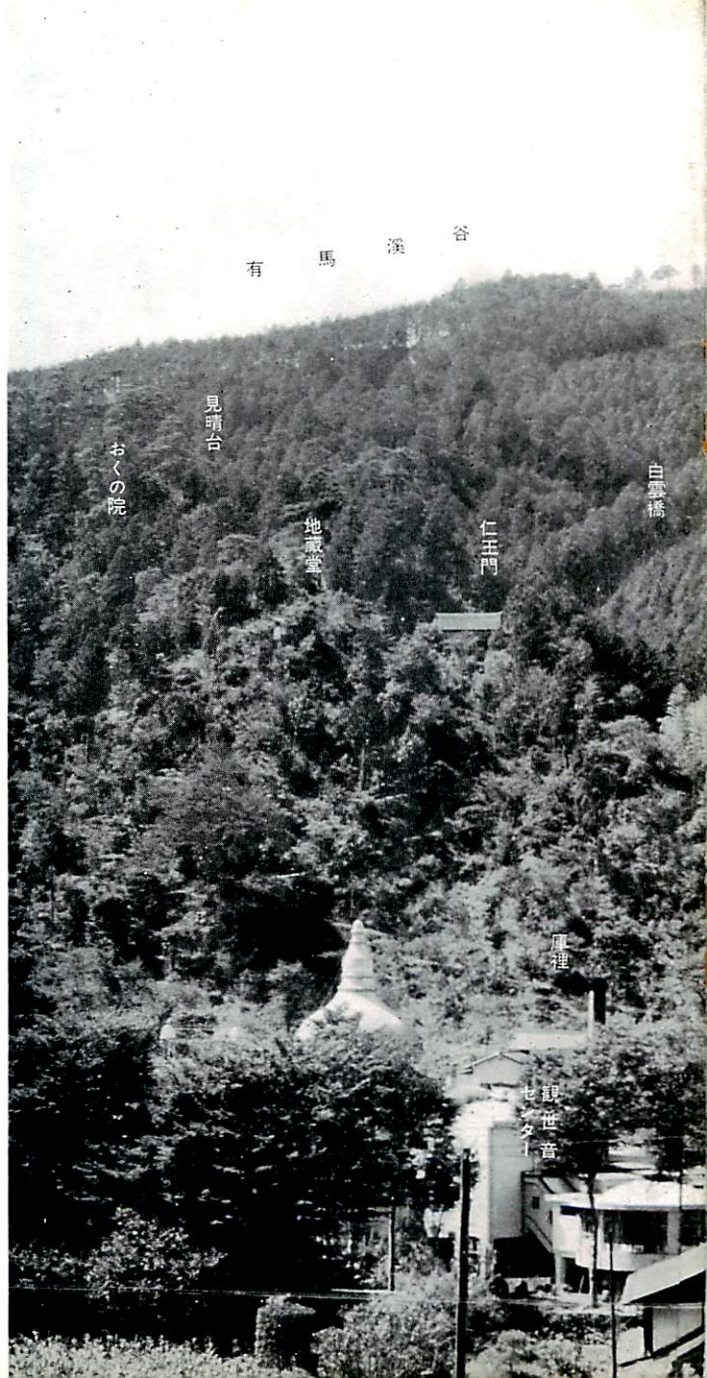


白雲山

鳥居観音のしおり

3号  
七月一日発行





帝釈天

聖観世音菩薩

梵天

# タイ 印度巡礼記 (其二)

平 沼 桐 江

## 鹿野苑 (ロクヤオン)

釈尊と共に六年間の苦行をした五人の比丘は釈尊が苦行をやめて女人の捧げた乳を呑まれた事により釈尊は墮落されたものと思ひ別れて鹿野苑に來て修行していました。

釈尊はブダガヤで悟られた有難い真理を先づこの五人の比丘に伝えようと鹿野苑に行かれました。

廻がこの五人は始めは釈尊を馬鹿にして居りましたが釈尊の説法の深遠なる真理に感激して釈尊初めての仏弟子となったのであります。

これが波紋の如く全国に拡がり此所に大きな初転法輪寺という修業所が建てられましたが後年回教徒のため破壊され今はその広大な礎石とダメータ塔とを残すのみであります。

ダメータ塔シセキ咫尺に秋陽かがよえる とみ  
此所には今より数十年前に英国人が建てた新しい



野生司画伯の壁画のある  
初転法輪寺の参道

初転法輪寺があります。その大きな壁画の釈迦一代記は日本の野生司(ノウス)香雪画伯が六年の歳月と艱難を克服して美事にえがかれた名高い壁画があります。ある時は金がなくなつて画伯は自分で画いた絵を売り歩きつゝその製作を続けられたと聞きました。

私は十三年前この絵を見て感激し早速野生司画伯に御願ひして鳥居観音本堂の壁面に観世音菩薩

に因縁の深いフダラク山等の絵を一年位かかって画いて頂いたのもこのような深い因縁によるものです。

今回もこの寺で高階瓏仙猊下お導師により壮厳な回向が挙行されたのは誠に感無量でした。

### 靈鷲山（りょうじゅせん）

ラジギール（王舎城）の五大山の中の高い靈鷲山は永い間釈尊が説法されたという名高い所であります。ピンピサー王が釈尊のために造ったという立派な石畳の道を千米位登りますと九合目位の所に稍平らな場所があり、前方空高くそそり立つ岩山の頂上で釈尊が大無量寿経 法華経等の大説法を永い間なされたという名高い所です。岩山附近に目蓮 舍利弗 大迦葉等高弟達の洞窟が今もありません。

私共一同はこの岩山頂上のお説法の御座に向って、声高らかに感激の読経を致しました。

天高し靈鷲山上、経の声 とみ

靈鷲山の外に四山が連立して居りますが、この五



靈鷲山頂

大山の北側には竹林精舎のあとがあるとの事ですが、今は大平原でシャボテンのようなトゲのある大木かん木が生茂り夜は虎や豹が出る事もあるそうです。

ブダガヤ近くに日本山妙法寺という日蓮宗の寺がありますがその日本僧はよく団扇太鼓を敲きながらこの靈鷲山に登られるそうですが、これは虎や豹を追いはるう役もするとの事です。

此山裾には釈尊が入浴されたという温泉があります。そして信者が着物を着たままもく浴したり

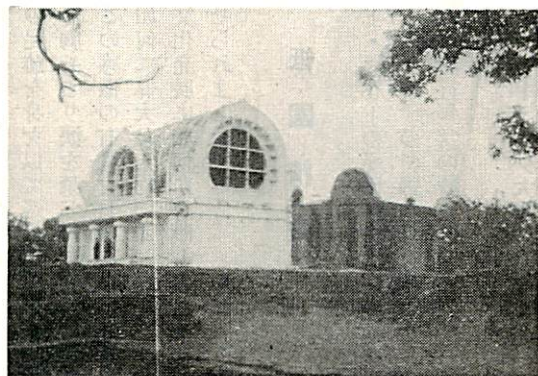
湯滝にかかったりして居りました。またその上手長猿がたくさんいるジャイナ教の立派な寺がありました。

この近くの山腹に七葉窟という洞窟があります。釈尊入滅後第一回の結集（けつじゅう）が行われ五百人の阿羅漢（高僧）が集まり釈尊の教えをいろいろと話し合い研究した所がありますが、今この洞窟は荒れており、また暗くて奥深くはいる事は出来ませんでした。この結集は今日に至る迄百年目毎位に実行されて居ります。

ビルマで開かれた第三回世界仏教徒大会の時は二十五回目の結集の歳なので各国から石を集め二万人位入れる洞窟を造って第三回の大会場としたのでありますが是もこの七葉窟を形どって建てられたものであります。

## クシナガラ

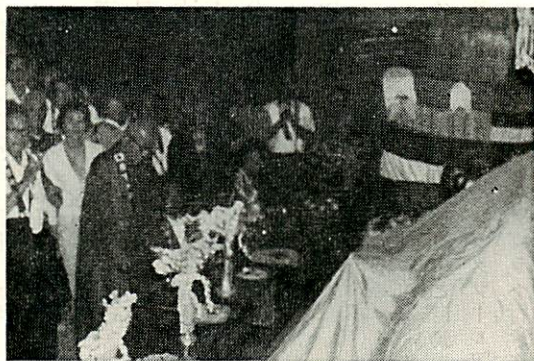
ガンジス河を渡り、夜汽車と自動車を幾度か乗り変えてソネプールやゴラクプール等を通ってネパール国境近くのクシナガラへ行きました。



クシナガラ 釈迦涅槃の地

釈尊が説法の旅の途次信者の布施の茸にあたり衰弱されて遂にこのクシナガラの沙羅雙樹（サラソウジュ）の下で八十二才で入滅されました。

其所には火葬場の跡として大きな土饅頭の形の塚があり、また一キロ位離れた所にお骨や灰を納め



一行供養に涅槃釈迦

てある塚と其塚の前方に大理石造りの寺院があつてその中に巨大な石で釈尊の涅槃像が祭つてあり、美しい花や線香が供えてありました。一同は例の通り線香を持って寝釈迦のまわりを舎利礼文を唱えつつ涙ながらの供養を営みました。

その前には破壊された古い寺院の跡や沙羅双樹が繁つて當時を物語っているように思えました。

クシナガラ時雨れて読経の声粛と　とみ

茶毘の跡草の実はせて幾星霜

日本の仏教徒殊に僧侶が經典を朝夕口に唱え頭にきざみ込まれている天竺の靈地に遙々と踏み入つて釈尊の足跡を身を以て巡拝する事が出来た喜びと感激に胸せまり涙を禁じ得ないのは当然の事であり、この感激の有様を目のあたり見た私は釈迦如来の如何に偉大な人物であつたか、また仏教が日本の文化発展に如何に貢献したかを泌み泌みと感じさせられました。

### 精舎園祇

サヘト・マヘトの祇園精舎はニューデリーに行く途中にありますので国内飛行機上から「祇園精舎の鐘の声諸行無常の響あり」と口ずさみつつ遙拝致しました。

ナーランダ大学



ナーランダー大学の遺跡

ナーランダー大学はブダガヤの東方二百キロ位の所で積尊入滅後五百年頃に建てられたものです。一時は十万人位の仏徒や僧侶が居たと云われる。広大な練瓦造りの学校と寺院の跡があります。玄奘三蔵法師が此所で勉強されたのは積尊入滅より

千二百年後で今から千三百年位前の事です。其後回教徒に破壊されて残っているのは其の一部だけで大部分は基礎の練瓦だけになって居ります。其の残っている一部の建物の中を見物しましたが中々出られない位の広さでした。

### 印度仏教の現在

現在印度仏教徒は印度人口の五%しかなく八五%が印度教（ヒンズー）であります。

此の印度教は十大聖人を以て神として居ります。積迦如来は其の中の一人であります。

だから仏教は日本で花が咲き印度では印度教の中に生きていと云えましょう。

日本の仏教界では吾々の大本山である印度の仏教を何とか盛んにしたいものだ。と基金を集めたりお寺を建てる計画がなされつつあります。現に橋本老師がブダガヤに立派な塔を建てられました。が印度の仏教を復興させるのは日本の力だけでは困難の様に見えます。

併し現在仏跡は印度政府で保護して居りますのでよく整頓されていますが、他の宗教に比し巡拝



本橋印匠の建てたブッタガヤにある塔  
老師の建てた

者が少ないのは淋しい感がしました。

中国の周恩来氏からネール首相に玄奘三蔵法師の御頂骨を分与されたのは八年前ですがこのお骨はゴラクプールの博物館内に出来た玄奘三蔵法師記念館に安置されて居り将来ブダガヤに塔を造る計画もあるとの事です。

法師は印度中を歩かれたので定めしこの記念館には色々のものが沢山ある事と思いましたが時間が都合で博物館へ行けなかったのは残念でした。

かつて日本の仏教会から台湾の蔣介石総統に贈られた法師の頂骨は台中国立公園内の日月潭と云

う美しい湖水の半島上に国家の力により立派な玄国寺と云う寺名で建立されて居りますのを昨春参拝してまいりました。

印度仏跡の巡拝記は此の辺で筆を止めます。

## ゴラクプール

ゴラクプールでは輪タクを連ねて町見物やヒンズー教のお寺に参りました。この寺はシバの神其他珍らしい仏像が沢山飾ってありました。

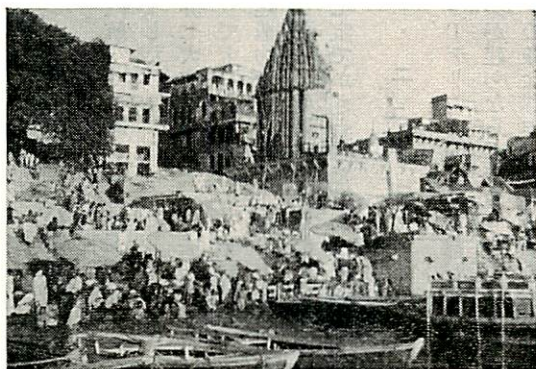
また個人の力で建立中の相当大きなお寺を見物しましたが、この寺の建立の理由はお祖父さんが信仰家で偉い人であったので、之を祭るためその孫（六十才位の人品よき人）が建立中で約三分の二位出来て居り其の寺内には沢山の不思議な仏像が並んで居りました。

印度にも私のような変わりものが居るとなつかしく参拝しました。

## ベナレス

ガンジス河の西岸のベナレスは印度教のメッカと云われる位で印度教徒は一生に一度以上必ずべ





ガンジス河岸の水浴風景

ナレスに巡礼しなければ天国に行けぬと言われて  
いる程の霊地であります。

そのため毎日何万人と云う人が此の聖なる河と  
云われるガンジス河で水浴したりお寺でお籠りし  
ている様は実に壮観です。

人が死ぬと河端の露天火葬場で焼き其の灰を河

に投げ込めば天国に行けると信じているのです。

そして大きな天秤のはかりで一人焼くだけの薪  
を火葬場附近で売っているのが見えます。ガンジ  
ー翁も此所で火葬されたとか、昔は死体を焼かす  
に水葬したが今は禁じられたとか、信者はこの濁  
った水を壺に入れて国に大切に持ち帰るのだ等と  
案内者が説明してくれました。

また河の西側は数キロの間お寺やお籠り場やホ  
テルが林立しています。ところが河の反対の東側  
は広漠たる平原で一軒の家もありません、それは  
向側は地獄だから住む事は出来ないと言う迷信か  
らだとの事ですから驚きます。

それ等を遊覧船で見物しましたが実に壮観とも  
云うべき大霊場であります。

河岸のお寺には色々ながあります。ヒンヅー  
教の大本山のお寺は何十頓ともわからぬ程の純金  
のノベ板で屋根を覆っておりましてお寺の中央に  
は現物大の石彫の牛を祭り信者が水をかけて狂信  
的な呪文を唱えています。

又エロ彫刻で埋まっている様な宗派のお寺が  
あるかと思うと之と逆に許婚の夫が死んだら一生

尼の独身生活をするとうや敵しい宗派のお寺もあります。又紅を額や頭等に色々の形で画いている人が沢山おられますし牛に迄つけている風習もあるようで此のお寺に参りますと到る所赤い色をなすった毒々しい指の跡がありまして私共に迄紅をつけてくれようとはしますのであわてて逃げ出した事があります。

## タージ・マハール

国内航空でアグラに行きタージ・マハールを見物しました。

世界七大建築物の一つと云われるだけに総大理石造りで寶石をちりばめた華麗雄大な実にすばらしい建造物です。之は王様が王妃の死を悲しみ十数年を要して建造されたもので地下の中央に王と妃の七宝でかざられた墓石が据えてあります。

## ニューデリー

ニューデリーは印度の首都だけあって整然と文化建築が建ちならんでおりますか旧デリーはカルカッタの様な昔乍らの悪臭にみちた町でした。



ガンジー翁のお墓

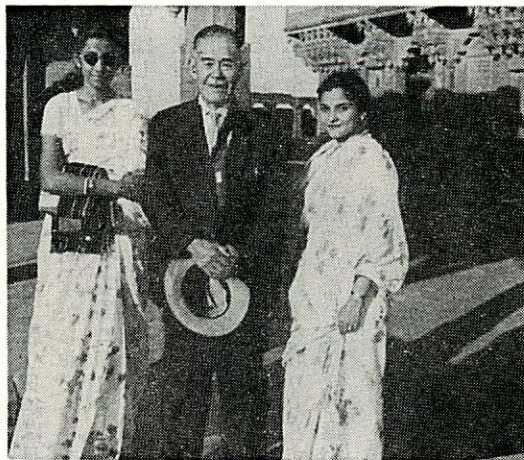
此所にてはガンジー翁や故ネール首相のお墓におまいりしました。高さ一米周囲五米位の黒大理石の四角で何のかざりもないが只、ガンジー翁の墓石には「おお神よ」と翁最後の言葉がぎざみ込まれてあります。そして多くの参拝者があり生花の花輪等が沢山供えてありました。一行はここで

## 其他 雜 感

一 印度教の教義は『現世の苦難は来世の仏果を得られる因である』と確く信じております。其の為好んで身を苛なみ現世の仕合せ等は考えておりません。そして働く事は二の次で朝な夕な祈りつづけているとの事です。

印度教は印度人口の八十五%をしめて居り牛を神として大切に居りまして現在全人口の約半数の二億頭も牛が居り尚増加しつつあるそうです。

近年の飢饉つづきで人口の四分の一の一億の人達は飢えに苦しんで居りますので、国家でも牛の増加を防ぎ且つ食糧の一助にしたいものだとな牛の屠殺の法律を出そうとすると「吾々の母である牛を屠殺してはならぬ」と教徒が盛んにデモ行進をやつて州議會等を困らせて居りますし、外国からの援助食糧は大部分牛に食わせるので牛は丸々とふとり、人間は一日バナナ一本位で暮しておる者もあると云う程の迷信に徹して居ります。牛の糞は大切な燃料で七寸位の煎餅のようにして塀や大



赤石のお寺の屋上にて

も読経礼拝いたしました。

其他雄大な古城や赤い石の王宮寺院等沢山見物しましたが記憶が混同して記す事が出来ません。只彫刻が変化は少ないが一面に彫つてある其の努力には感心させられます。

木に張りつけて乾燥しております。牛が老衰すると野原に捨てて禿鷹や野良犬に喰わせている様を汽車の窓から見る事が出来ました。

印度は貧富の差が甚しく先日死亡した世界一の金持ちと云われる様な王侯からドレイ迄五階級に厳然と別れております。使用人も幾人も雇はねば用は足せません。掃除洗濯炊事庭掃除等々一人一仕事しか出来ない事になって居り日給は日本円で一日三十円前後との事ですからおどろきます。ですから印度は三百年間も英国に搾取されて漸く独立はしたがそれは形だけで精神的な独立はして居りません。

印度教の根強い迷信や人間の五階級が蔽として有様を見る時、たとえ偉大なる為政者が出ても二千年前のあの文化の繁栄を取りもどすのに幾十年かかるか見当がつかない様な気の毒な国だと思いました。

二 ニューデリーで一夜「光りと音」の劇を見物しました。それは宏大な王城郭の中で宮殿風の建物や寺院のような尖塔や鐘楼のような櫓造りのような建造物が木の間がくれに点在しその内外で色

のサーチライトを点滅させ音楽や声色を建物の内外各方面から交互に演出しまして王様が多くの侍女に取りまかれて饗宴している状況とか重臣等がさわいでいる様が美しく想像されます。右の方では群集がわめいているかと思うと左の方で戦争が始まったり様々の演出が実演よりも心打つものがあり、日本ならさしづめ富士山でも背景にしなればと思う位広大なものでした。

三 夜自動車で或る町を通りました所丁度シバ神のお祭りをして、十一月の闇夜の晩に行われるもので、シバ神の人形を美しく町の辻々に飾り町ぐるみ家の内外をはだかローソクを一杯立てて祝っており如何にも異国の珍らしお祭で旅情を慰められました。

四 印度人は大国民だと云うほこりを持っておりまして宴会等での印度人の話は先ず「吾々大国民は」と出ます、彼等から見ると日本はセイロン島に毛のはえた位の小国としか見ていないとひがまれましたが輪タクに乗りました時立派なヒゲをはやした堂々たる大男の運ちゃんなので小さな日本人として一寸変な気がしました。

汽車も日本の新幹線よりも巾が広く車体も頑固で戦車に乗った様な気持です。

便所のアサガオが高くてとどかず皆閉口した所が所々にあります。「あさがおにつるべとられて……」等としゃれどころではありません。併し最近のホテルのは規格にはまっておりますから心配御無用です。

五 自動車道の両側はどこまでも大きな堀でこの前の旅行の時は沢山水牛が遊んで居ましたが今回は水が全くなく水牛も少なくしょんぼりして居ました。又田畑も見渡す限り亀の甲の様に割れていて農民が死にもものぐるいで井戸から水を汲み上げ田畑にそそいで居りますが焼石に水で全くあわれでした。処がある地区で大きな用水が完備している所は農作物が青々と繁茂して居ります。

印度は今迄は先進国に追いつこうとして鋼工業の近代化に重点を置いたため今回の様な早魃に出合うとたちまち食糧難に苦しむのだと思います。

もし印度が農業に重点をおいて用水を完備し大農法で生産する様になったら年に三度以上も米が取れる所故世界の食糧を左右する生産量になるでし

ょう。

六 ニューデリーの日本大使館で日章旗の翩翩とひるがえっているのを見た時又宴会で君が代を奏でられた時は祖国日本の有難さをつくづく感じ胸せまるものがありました。「雲に入りて雲見えす雲を出でて始めて雲を見る」と云う詩がある通り日本に居ると其の有難さがわからないのです。日本人はもつと日本民族の誇りを持って団結して思想の統一を計らねばならぬと外国に行つて見てつくづく感じられます。

観音経の最後に「南無大慈大悲観世音菩薩 種種重罪 五逆消滅 自他平等 即身成仏」と称えますが二千数百年前に已に仏教では自他平等と称えているのには驚きます。

現代の物質文明、科学万能により曲げられた日本民族の人間性を此の大慈悲による自他平等の仏心により取りもどす事が何よりも緊要であると云う事を痛感させられてなりません。

七 ニューデリーから飛行機で帰国の途次始めて北方に美しい白皚皚たるヒマラヤの連峰が見えました。観音様の住んで居られた補陀落山はヒマラ

ヤの事だと聞いて居たので観音様に縁の深い私は感深く遙拝しました。

八 タイではチェンマイとバンコックの一部だけ又、印度仏跡は北辺に多く日数の制限もあり印度の一部しか見物いたしませんので「群盲象をなでる」に等しく間違つた見方も多いかと恐縮して居ます。

併し汽車やバンガロー等の宿泊用に寝具を持ち歩くのですが、埃がひどく、そうつとひろげてそうつともぐり込んで、じつとしていないと埃で鼻が変になるのです。又バンガローでは三度三度同じもので辛くて油こい食事で閉口したことや気候も激変する等私等老人には相当の難行苦行でした。が三十名の一行は仏の御加護により皆無事に帰国する事が出来ました。

仏跡の秋をふたたびとも白髪

終り

とみ

## 第一回講元会議開催

事務局

五月一日二日の大祭を執行するに先だつて講中結成第一回の講元会議を四月五日午前十一時から

地元名栗講元をはじめ東京、八王子、浦和、大宮、川越、狭山、所沢、飯能、秩父の各講元二十二名のご出席を得て、寺院側から開祖平沼弥太郎、代表役員平沼宏之、外関係者六名が参加して増築成つた本堂に於て講中の祈願法要を執行、次で三蔵塔にて法要を営み、終えて塔内を見学し、折から陽春の日和も上上の白雲山境内に咲き初めた、紫つつじや岩かかみ、山吹などを探勝しつつ下山。本堂前に於て一同記念撮影をし、直ちに庫裡に於て来る大祭執行について、御協力いただくことをお願いし併せて種々の協議をして午後四時散会した。

## 夏の行事について

六月十七日 月例法要

七月十七日 月例法要

八月十六日 うら盆法要と灯ろう流し煙火大会

盆踊大会

九月十七日 月例法要

九月彼岸 彼岸法要。役員物故者法要。支那門

上棟式。講元会議。

## 春の大祭無事に終了

五月一日鳥居観音の本堂増築落慶式と千手観音開眼式が春季大祭に併せて開催された。

午前十時三十分から打上げる煙花を合図に上殿導師は曹洞宗管長高階瑞仙猊下（九十二才）によつて執行された。

地元梅花流名栗支部の婦人の御詠歌奉詠と、可愛い稚児の行列の参加もあつて式は莊嚴のうちに進められ、浄道場、香語について来賓代表として、参議院議員、医学博士、全日本仏教婦人連盟理事長山本スギ先生と元国会議員阿左美広治先生のお二人からお祝辞をいただいた。その後発願主平沼先生のあいさつがあつて予定通り十一時三十分には式も終了し、直ちに本堂奥に安置された千手観音を初め他六体の観音を一巡参拝していただき午前の式は終わった。

次いで午後十二時三十分から三蔵塔に於て法要が執行されたが参拝の人々は各自に火がつけられ

た線香を手にして塔外廊を一巡し、手前の香炉に納めていただいた。

下山の道順は自由にしていただいたが時節柄白雲山内に出来ている遊歩道を新緑香る樹下に咲く山の紅つつじを採勝しながら、奥の院—仁王門—を経てのコースが大変よかつたとよろこんでおられたのも嬉しかつた。

午後二時から稲村担元先生と高階猊下の法話がセンターの広間に於て開かれるわけで皆その時間にはご集合いただいた。法話をなさる猊下の御態度はとても九十二才の高齢とは思えないお元気で一同おどろいていらつした。

法話が終わると芸能人による演芸がはじまり、外には煙火も打上げられてにぎわつたが午後四時には第一日の行事も終了し散会となつた。

翌五月二日は前日と同じ日程で高階猊下によつて法要が営まれ来賓代表として、祝辞は不二サツシの佐野社長殿と弁護士渡辺綱雄先生のお二人からいただいた。祝辞の後高階猊下から観音と信仰を通じ人のあり方について開祖平沼先生の衆生濟渡の精神を讀んで御あいさつがあつて終了、前

日と同様本堂の七観音を巡拝いただき十一時三十分式を閉じた。

午後十二時三十分から三十分間三蔵塔の法要は前日と同じに執行され、塔内の拝観者もあり、白雲山境内探勝と共ににぎわった。

午後一時半からは埼玉県文化財関係で有名な山口平八先生の観音と信仰と言う題名で講演があり、それぞれ七観音の特色と御利益について平易且おもしろく解説されてあきるところがなかった。

午後三時からの懇親会の時間も前日同様演芸が開演されておもしろく又たのしい一時がつづいた。

そして午後四時には予定通り一切の行事も終了してここに二日間にわたった大祭も天候にめぐまれ、かつ多くの方々の御協力によって無事に幕を閉じたのである。

白雲の山深く来て拝みぬ

慈顔垂れ給う鳥居観音

七体の観音祀る白雲の五月の

空はかがやきてあり

観音の御堂も成りて落慶の

式も五月の新緑の中に

三蔵塔前の香炉にたかれたる

香煙ゆるく塔をめぐりぬ

### 夏の白雲山と観音センター

新緑が終ると針葉樹の中に青葉が茂って時々吹き渡る風に白い葉うらを返して見えるのも夏でなければ見られない光景である。北から南へ流れる名栗川の清流も雨毎に増水して川もきれいなる。

#### 炭谷入観音滝

この滝も白雲山鳥居観音の一部であって炭谷川にのぞんで落ちている「称して観音滝」と言う滝がある。中段に観音様が祀ってあるからである。センターから約一軒の処で村道を散歩がてら探つねるのがよい。これから秋にかけてここに来て過すと滝のしぶきに汗も冷える。又炭谷川に足を浸して、滝つぼに持参の飲物を冷してのむのもよいであろう。山百合の香が花の盛りともなれば鼻をつき昼でも静寂そのものである。

自酔

千昭



### 白雲山の紅どうだん

白雲橋は三蔵塔前の広場から左に下りるとそこに細い滝があると、ところに架かった石橋である。夏はこのあたりに来ると松檜の木立がすすくすくとのびてかげをつくり、吹く風もひんやりとする。木の根元のしだの茂りも目に涼しくゆれている。ここから横道を行くと奥の院に出られる。その道々にどうだんの木があって紅の小鈴のような花が咲く時は美しく又可愛いものである。

白雲山に登るみ坂や蟬しぐれ

どうだんの紅の小鈴ふれてみぬ

千昭

夕

### 灯ろう流し

名栗の盆は八月十六日が一番たのしい。鳥居観音ではこの日希望をされた仏の供養をして夜になつてから灯ろうを名栗川に運んで流すのである。

静かな川原に読経の音がびびき灯が入った数百の灯ろうが川上からすべるように流れて、セントタ下の水泳場に落ち合つてそれぞれががやき又おとろえ川面一面に広がる光景は盆の行事でなくては見られない情景である。

灯ろう流す灯に群像の面論浮く

千昭

### 灯ろう流し夜の川原に浴衣人

#### 観音センターの特設水泳場

名栗川の自然流水をせき止めて出来たのがこの特設プールである。センターで脱衣してすぐこのプールに行くことが出来る至極便利な夏の遊び場である。広さ約一平方メートルの中は泳ぐにも危険がなく水温も適当で底まで突き透つて見える程きれいだ。水中を泳いでいる魚の群が手にとるように見えるのもたのしい処である。

家族連や団体の行楽地としてこの利用が夏は非常に多くなっている。

#### 納涼煙花大会

八月十六日の夜の灯ろう流しが終ると、広場ではにぎやかな盆おどりが始まり、又川原では数百年の煙花が次々と打上げられる。橋の上にも広場にも多勢の浴衣人が納涼をかねて見物するのである。煙花はパッと開いてパッと消えるのがよい。菊の花、柳、電光雷、いろいろのものがかわるがわるに打上げられ、又仕掛け花火が清流にうつつて美しく、しばらくはこのあたり人の波で一ぱいである。中空にひらいた煙花の音が山峡にこだま

してその瞬間人々の顔が闇に浮き出て波を打つなど一興である。

涼み台夜空に遠く上げ煙花

千昭

人知れず寄りそう橋や煙花散る

里人の集う一夜や揚煙花

絵灯ろう川面に浮きて煙花散る

### 観音センターの施設のいろいろ

センター前の広場に次のような娯楽施設が七月一日から開設されるのでお子様連の御家族にたのしくすごしていただけたらと思う。

木馬 センター前の広場に数台が完成

豆自動車 同 一周四十米のもの

廻転大観覧車 同 これにのると三蔵塔も見え  
る。

洋弓場 同

バズーカー 同

鯨釣場 センター北側にあつて沢山の鯨がいる

(入場百円)

ウォーターシュート センターの二階から名栗

川水泳場まで約三千米を水と共に人が

流れ落ちると言うスリル満点のウォーターシュート計画中。

### 鳥居観音初詣芳名

今年の元日は珍らしく初雪が降って野も山も白一色に清められて境内は一層清浄と化した。毎年初詣での御信仰の厚い信者の方はこの雪景色をめでながら御参拝になった。(敬称略)

若林五郎(東京)

栗原通任(東洋ゴム)

同 とく(同)

吉永重雄(同)

浅見富蔵(名栗)

滝沢一雄(西武)

森田角三郎(川越)

佐藤寿夫(巢鴨)

原田愛助(同)

齊藤定次(所沢)

平井敏治(坂戸)

島田森雄(埼玉)

柳 俊次郎(東京)

岡部健次郎(名栗)

橋本栄一(北埼玉事務所)

吉田仙太郎(名栗)

三沢正六(大里同)

吉田仙太郎(同)

新井政雄(児玉同)

平沼幸一(同)

志村福三(入間同)

浅見寅雄(同)

片岡正二(比企同)

町田仲太郎(同)

久米寿次(秩父同)

田島伝治(同)

持田清一(県文化課)

平沼寛一郎(同)

小島太郎(埼玉)

山口敏夫(東松山)

白雲山 烏居 観音 案内図  
 観世音センター 案内図



秋葉山

面白岩

→ 観音滝

琴比羅神社

三蔵塔

此の三尊四阿

本堂

壇輪利四阿

梅月橋

梅曉之臺

皇居文庫

名栗川

